

問 支所の職員配置は適正か

小川清治議員

答 適正配置である

合併して6年、過去最大の積極型予算が新体制総員187人の職員でスタートした。支所の職員配置が偏っていないか。油木支所14人、神石支所11人、豊松支所12人と職員配置が住民の人数に対して比例していない。何を基本ベールに配置されているのか、均衡ある住民サービスが出来ているのか。

比べ上水道施設整備が進み1名増としている。基本がないのはいかがなものかと思う。人口割合で職員配置すると油木15人、神石14人、豊松9人となる。豊松支所の、水道業務は町民係で神石支所と同数だ。産業建設係が3人で神石支所より1人多い、課をまたいでの業務を行っているのか。

籍調査担当を神石支所より1人増としている。神石は地籍業務委託が多い。豊松ではその部分を職員で対応している。平成27年までの職員適正化計画見直しによると、支所機能は見直すところがあるのか。無駄をなくし計画的な行政運営と町と住民が共に繁栄できるまちづくりを願う。



豊松支所

や支所の担当区域変更も視野に入れ検討する。

問 口蹄疫対策に万全を

寄定秀幸議員

答 危機感を持ち迅速に対応する

宮崎県の対応を教訓とし、口蹄疫から我が町の畜産業を守るため、万全の対応をすべきだ。また、万が一の場合の危機管理体制はどうか。

「国家的危機」と言われているが、非常に危機感を持っている。後手後手に廻らないよう対応する。消石灰の配布で消毒体制の徹底を実施。神石高原町悪性伝染病防疫対策マニュアルに沿って国・県の関係機関と連携をとって対応している。



帝釈峡桜橋（神龍湖）

光課」を創設し、農・商・工、一体的な取り組みを推進する。帝釈峡歩道の復旧は県に要請してきたが財政状況により予算化につながないのが現状だ。今後、庄原市とも連携しさらに強く要請する。

用は、児童・生徒の学習意欲向上につながる。基礎・基本的知識の習得と活用による思考力・判断力・表現力を養っていきたい。教育効果の向上と事務処理の簡素化で校務の効率化も期待できる。児童生徒が主体的に学ぶための情報活用能力を育成することが重要だ。各教科や総合的学習など、学校教育全般を通じて育成を図っている。

問 農林業の将来ビジョンは

佐伯卓師議員

答 トマト・ブドウ・和牛を柱に

町は自立できる農業、希望の持てる農業へのビジョンを示し、集中した対策により振興を図るべきであるが、本町における農林業の位置づけと将来像は。また、農産物の団地化や今後の和牛振興対策への取り組みは。

時流に流されるのではなく、勇気と力を持って激流に立ち向かう気持ちで、突き進んでいく覚悟である。水稲を中心にトマト・ピオーネ・和牛などを組み合わせた複合経営を基本として考えている。トマトは中・小規模の生産団地を町内に数か所考えており、早急に調査したい。和牛は1万2,000頭構想の実現に向け取り組む。



和牛の肥育風景（三和）

本町の山林の32%は人に有効な手段である「やまなみ商品券」の流通拡大を図るべきでは。

工林であるが松林も多く、林業は大変厳しい環境にあるが、長期的な視野に立ち、森づくり構想に沿って進めていきたい。CATVの導入で情報通信環境は飛躍的に向上する。学校教育にどう反映するのか。また、情報識別能力が重要となる。メディア・リテラシー教育への取り組みは。

問 CATV加入促進の条件緩和は

木野山孝志議員

答 現時点では考えていない

CATV事業の加入促進のために、事業所の加入負担金実費の条件緩和をすべきでは。

CATV事業は、いろいろ想定し、方針を決めて9月議会で補正予算を上げたい。CATV事業は、いろいろ想定し、方針を決めて9月議会で補正予算を上げたい。

町と商工会など関連活性化に向けたプロジェクトチームを立上げ前向き検討したらどうか。



被爆ピアノコンサート（やまなみ文化ホール）